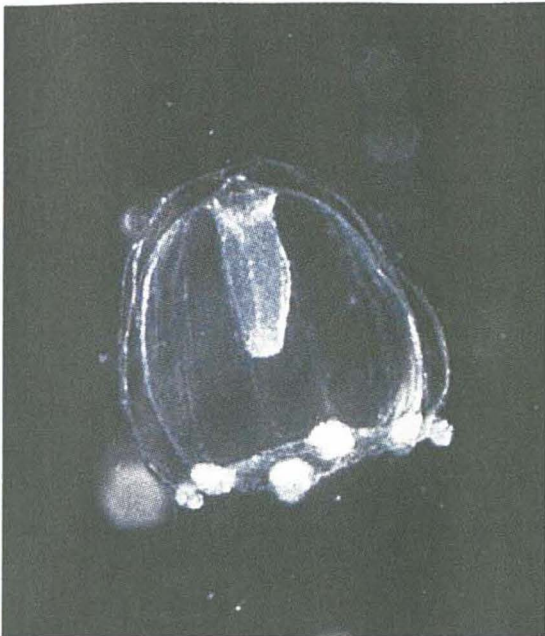


ソトエリクラゲ



まだ幼いソトエリクラゲ

久保田 信

44



ソトエリクラゲは、傘の外側に襟状のものが突き出ている小型のヒドロクラゲだ。大きくても直径3ミほどにしかない。

画像の個体はまだ若く、「襟」は傘の稜線(りようせん)に残っている。近縁種のクダ

ウミヒドラモドキは、生涯にわたって触手が2本だけである。すべての触手上の刺胞も、外向きに複数が点々とついている。なんでも外なのだ。触手の刺胞のこのような特徴は、クダウミヒドラモドキと同じである。

触手は採集時に取れてしまったが、全部で4本ある。画像では傘の縁にある左右2個の膨らみに、かろうじて触手が残っている。近縁種のクダ

ソトエリクラゲは田辺湾でそれほど多く採れておらず、成熟個体もまれである。わが国でもあまり知られていない。成熟個体だと、クラゲの内側の傘の中央にある口柄を取り囲んで生殖巣ができる。

ソトエリクラゲのクラゲはすごく小さいが、ポリプの1個虫はクラゲの15倍ほどの大きさがある。しかし、野外からはなかなか見つからない。大型の個虫が多数集まった集合体で、群体の高さ(最大個虫の全長)は3センチ達する。

まだ筆者は生きたポリプを見たことがない。クラゲは雌雄別々のヒドロ花の上下2環列の触手の間に、フルーツが実るよつに多数できる。

(京都大学准教授)